

なるほど! ザ・ファンド

Q & A

Vol.210

Q.

為替レートの動向を見るときに参考になる経済指標はありますか？

A.

為替レートは複合的な要因で変動しますが、例えば各通貨ペア*¹の一人当たりGDP*²と為替レートの間には、ある程度の相関関係があると考えられます。

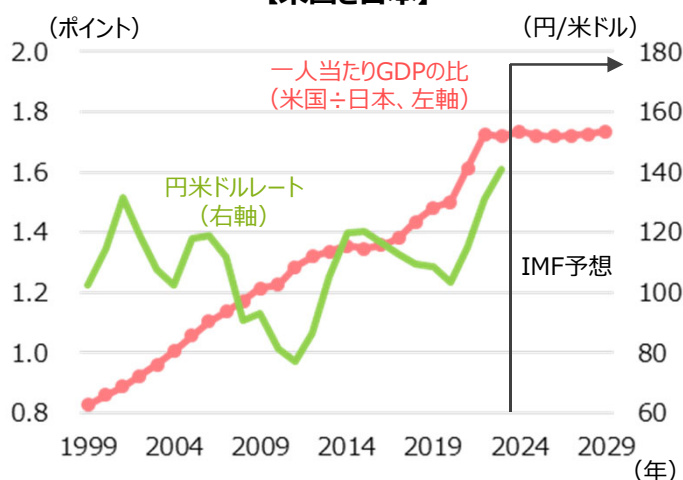
- ◆ 為替レートは総じて各国の国力を表していると考えられます。国力を表す指標としては、各国の経済規模などが挙げられます。
- ◆ 各グラフは、為替レートの推移と各通貨ペアの一人当たりGDPの関係を表しています。**過去、相対的に一人当たりGDPが大きくなった通貨は、為替レートが上昇する傾向にある**ようです。
- ◆ ただし、国力はGDPのみで判断されるわけではありません。**為替レートは、経済規模をはじめとして、金利差など様々な要因が複合的に影響して変動している**と考えられます。

*1 通貨ペア=通貨の組合せ

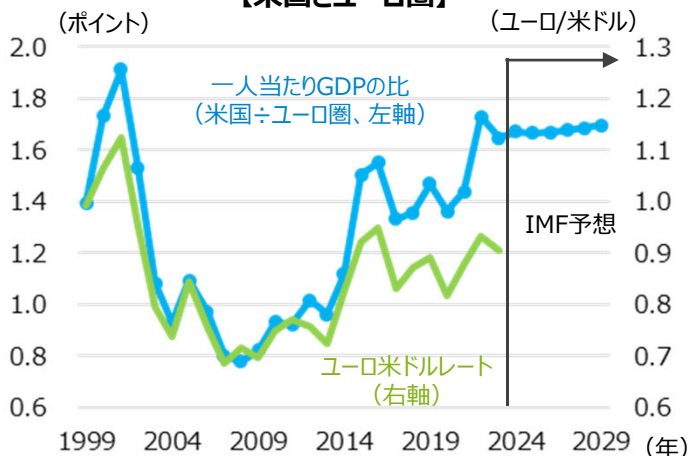
*2 一人当たりGDP=一人当たり名目GDP

一人当たりGDPの比と為替レートの推移

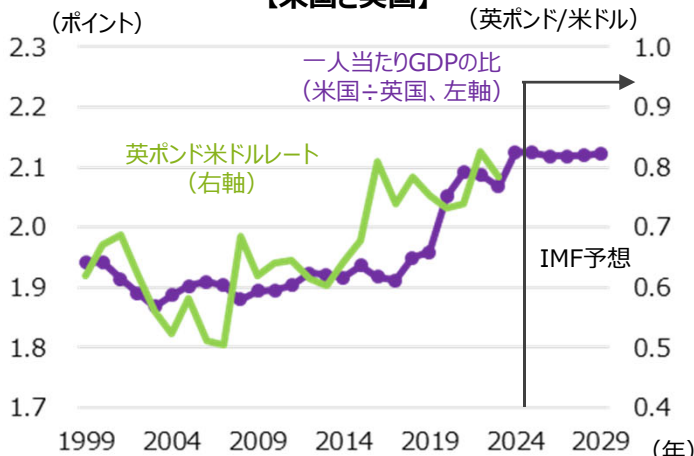
【米国と日本】



【米国とユーロ圏】



【米国と英国】



(注1) 為替レートのデータは1999年～2023年、各年末。

(注2) 一人当たりGDPのデータは1999年～2029年、現地通貨ベース、日本は100円、米国は1米ドル、ユーロ圏は1ユーロ、英国は1ポンド単位で計算。2024年以降はIMFの予想値。ユーロ圏は、ユーロ圏の名目GDPを各年のユーロ加盟国の人口の合計で除したものである。

(注3) 一人当たりGDPの比は、二国間の経済規模の相対的な大きさを示し、数値が大きくなるほど、米国の経済規模が相対的に拡大することを意味する。

(出所) IMF (国際通貨基金) World Economic Outlook April 2024, Bloombergのデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

※上記は過去の実績および将来の予想であり、今後の市場環境等を示唆あるいは保証するものではありません。

※この資料の最終ページに重要な注意事項を記載しております。必ずご確認ください。



【重要な注意事項】

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友DSアセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績および将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。